

# 千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1  
公益社団法人千葉県園芸協会  
連絡先 043(223)3005  
発行日 毎月 1 日  
平成 28 年 12 月号

## J A グループ千葉 園芸生産者躍進大会を終えて

全国農業協同組合連合会千葉県本部  
園芸部 部長 熱田 義之

J A グループ千葉は、千葉県、公益社団法人千葉県園芸協会との共催により 10 月 31 日に千葉市において「J A グループ千葉園芸生産者躍進大会」を開催し、生産者・千葉県・関係団体・J A グループ千葉が一体となり、持続可能な園芸農業の発展に取り組むことを確認しました。

### ◇「オール千葉」体制で園芸王国ちばの飛躍を！

大会には、生産者代表や市場関係者、実需者・取引先、行政、J A 役職員ら約 800 名が参加し、生産者・千葉県・関係団体・J A グループ千葉が一体となり、持続可能な園芸農業の発展に取り組むことを確認しました。



開会にあたり林茂壽大会実行委員長は、今夏の台風や豪雨等による農業への被害に対するお見舞いの言葉を述べられたほか、「J A グループ千葉は持続可能な園芸農業の実現に取り組む」と挨拶されました。



また、森田健作千葉県知事は、「県産農産物はタイ・マレーシアで人気があり、これからも輸出量を増やしていきたい」と挨拶されました。

続いて、来賓の東京千住青果(株)代表取締役社長の岩澤均様、千葉県生活協同組合連合会専務理事の丸山芳高様より、ご祝辞をいただきました。

大会では、千葉県農林水産部の伊東部長より「千葉県の園芸振興の方向について」として、園芸産出額全国第 1 位の奪還に向けた力強い産地づくりの推進について説明されました。

また、本会の岩城常務理事より、園芸事業の将来の方向性や青果物の流通構造、産地振興・産地づくり等について、磯野県本部長より「J A グループ千葉園芸事業拡大の取組と今後の方向」として、本県園芸農業の現状や環境の変化を踏まえ、主要品目や地域特産品目、花きの生産拡大やコスト低減等による「生産対策」と、立地条件を生かした顧客の確保や加工・業務用向け販売の強化等による「販売対策」に取り組むことを説明しました。

引き続き、東京青果(株)代表取締役社長の川田一光様より、「青果市場からの提言」として、今まで以上に実需者ニーズを分析し生産・販売することの重要性を提言されました。

記念講演では、本県出身でスポーツジャーナリストの増田明美氏より、「リオ、そして東京～スポーツと農業～」と題し、幼少期のエピソードや夷隅地域の鳥獣害被害の話など、和やかなユーモアあふれる話をされました。

大会では、河野豊大会実行委員より、「総力を挙げ「オール千葉」体制を強化し、園芸王国ちばの更なる飛躍に取り組む」との大会宣言が満場一致で採択され、閉会しました。



## 千葉の季節が始まります！千葉県秋冬野菜販売出陣式開催

流通販売課 首都圏マーケティングセンター  
副主査 大屋敷 亮輔

県産秋冬野菜の本格出荷に先立ち、東京都中央卸売市場大田市場で、千葉県秋冬野菜販売出陣式を開催しました。当日はちばの秋冬野菜応援隊（若手生産者、ちばの野菜伝道師の計 8 名で結成）による PR の他、だいこん、にんじん、ねぎ、さといもなど、旬の食材を使った試食を振る舞い、県産秋冬野菜の新鮮さや美味しさを多くの買参人に印象付けることができました。

11月11日、千葉県、JA全農ちば、(公社)千葉県園芸協会、千葉県野菜園芸組合連合会、「ちばエコ農業」生産者協議会は、東京都中央卸売市場大田市場で、「千葉県秋冬野菜販売出陣式」と銘打った秋冬野菜の試食宣伝会を実施しました。

会場には、旬を迎えた多彩な青果物や「ちばエコ農産物」が所狭しと並びました。展示のシンボルとなる野菜タワーには、オール千葉で産地連携に取り組んでいる、さつまいも、ねぎ、トマト、だいこん、にんじん、キャベツ、きゅうりの千葉県の主力 7 品目が飾りつけられました。

当日は激しい雨と厳しい寒さも手伝い、県産秋冬野菜を使った 2 種類の温かいスープは飛ぶように売れ、会場は大いに賑わいました。

主催者の挨拶に引き続き、若手生産者代表の宮崎さんと、ちばの野菜伝道師の高原さんが県産秋冬野菜をテンポよく PR。会場の熱気が最高潮に達したところ、多くの買参人を前に、大田市場では恒例となった「エイエイオー」のときの声の三唱を千葉県園芸協会間諜理事長の掛け声に合わせて行い、応援に駆けつけた産地関係者や多数の売参人の皆さんと共に会場が一体となりました。



多彩な千葉県の秋冬野菜 野菜タワー



みんなで力を合わせて「エイエイオー！」  
チーバくんも駆けつけてくれました



温かいスープには長い行列ができました

また、続いて東京荏原青果(株)の卸売場に向かい、千葉県産秋冬野菜のますますの御愛顧をお願いしました。

今後とも、より多くの消費者及び流通関係者に、千葉県農産物のファンになっていただけるよう、県、関係機関一体となって、一層 PR に力を入れてまいります。



## ニホンナシにおける「いや地現象」発生 の 品種間差

農林総合研究センター 果樹研究室  
主任上席研究員 川瀬 信三

「幸水」、「豊水」、「あきづき」及び「新高」の苗を連作土に定植すると、いや地によりいずれの品種も初期生育が抑制されました。いや地による影響には品種間差があり、その影響は「あきづき」が最も大きく、次いで「豊水」と「幸水」で、「新高」が最も小さいことが分かりました。

### 1 はじめに

本県のニホンナシは老木化が進み、若木への改植が急がれていますが、改植した苗木の初期生育が、いや地（同一植物の連作や長期間の栽培により作物の生育が不良になる現象）により不良となる事例が多く見受けられます。改植圃場の苗木の生育を観察したところ、いや地の影響は品種により異なると思われました。

そこで、いや地による影響の品種間差を明らかにするために試験を行いましたので紹介します。

### 2 連作土壌の影響

「幸水」を抜根した跡地土壌（以下、連作土）又は果樹未植栽の土壌（以下、新土）を充填した 22.5 リットルの鉢に、平成 25 年 3 月にマンシュウマメナシ台の「幸水」、「豊水」、「あきづき」及び「新高」の 1 年生苗木を植栽し、11 月に生育量を調査しました。

連作土区の 1 年生枝の生育を新土区と比較すると、発生本数ではいずれの品種も差がありませんでした。枝長はいずれの品種も短くなりました。総伸長量は「幸水」及び「あきづき」が短くなりました。基部径は「豊水」、「あきづき」及び

「新高」が細くなりました。

主幹径は、「豊水」及び「あきづき」が細くなりました。

1 樹当たりの生体重は、1 年生枝、旧枝、根部及びそれらの合計ともに「あきづき」が軽くなりました（表）。

以上の結果から、試験に用いたいずれの品種もいや地により初期生育が抑制され、その影響は「あきづき」が最も大きく、次いで「豊水」と「幸水」で、「新高」が最も小さくなりました。

### 3 おわりに

いや地の影響は、「新高」が比較的受けにくいことが分かりました。また、「新高」はニホンナシの老木で問題となっている萎縮病の発生が少ないことも分かっています。これらのことから、「新高」以外の品種に改植する場合は、まず「新高」の苗木を植栽して 1 から数年間育成し、そこに目的とする品種を高接ぎして育成することが、いや地のみならず萎縮病も軽減する一方策と考えられます。しかし、高接ぎする位置や「新高」に高接ぎした際の穂木品種の生育や成熟特性等不明な点も多いので、今後更に実用性の検討を進めます。

表 連作土壌が苗木の 1 年生枝の生育、主幹径及び生体重に及ぼす影響

品種	処理区	1 年生枝				主幹径 (mm)	生体重 (g/樹)			
		発生本数 (本/樹)	枝長 (cm)	総伸長量 (m/樹)	基部径 (mm)		1 年生枝	旧枝	根部	合計
幸水	連作土区	4.2	60.6 **	2.4 *	8.5	21.2	172	232	304	708
	新土区	4.2	89.9	3.7	9.9	21.6	252	232	280	764
豊水	連作土区	3.4	90.3 *	3.1	9.0 *	16.7 *	184	164	152	500
	新土区	4.2	109.6	4.5	10.5	20.5	312	244	188	744
あきづき	連作土区	3.4	63.5 **	2.1 **	8.7 **	17.1 **	168 **	164 **	180	512 **
	新土区	3.8	105.1	3.9	11.8	20.5	384	244	220	848
新高	連作土区	4.2	61.0 *	2.5	9.2 *	20.8	164	188	412	764
	新土区	3.4	84.1	2.9	10.6	20.2	244	204	356	804

注 1) \*は 5%水準で、\*\*は 1%水準で有意 (t 検定)  
2) 試験は各品種 5 反復で行った

頑張る産地



## 長生イチジク研究会の取組

長生農業事務所 改良普及課  
主任上席普及指導員 齊藤 寿久

「長生イチジク研究会」は、平成 24 年度に新たにイチジク栽培を始めた人達を中心となって立ち上げた組合です。既存の生産組合と共に、生産技術を磨き、市場出荷の増大に取り組み、イチジクが長生地区の新たなブランド品となるよう頑張っています。

### 1 研究会発足の経緯

長生地区では、既存組織として長柄町いちじく生産組合と睦沢町いちじく生産組合が市場出荷や直売所での販売を行っています。平成 23 年に長生農業事務所は、「いきいき農業セミナー」でイチジクを取り上げ、セミナー生を公募しました。そこに集まった 13 名に穂木（品種：榊井ドーフィン）を配付し、自分の圃場で栽培を開始したことが、研究会活動の始まりになりました。

翌年 5 月に市場出荷を目指す組織として「長生イチジク研究会」が発足し、JA 長生との連携により、市場出荷に必要な予冷库の確保や市場視察を行い、同年 8 月から出荷が開始されました。

### 2 生産と販売の拡大

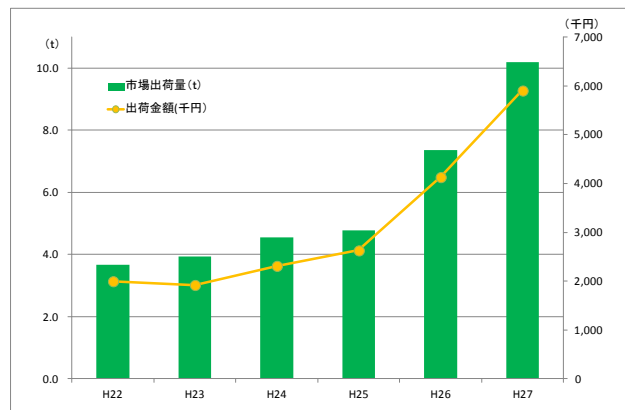
イチジクは果樹の中では比較的栽培が容易とされていますが、低温に弱く、カミキリムシやアザミウマなど防除が難しい害虫もあります。研究会では、栽培研修会や圃場巡回によって栽培技術の向上を図っています。平成 24 年・25 年と続けて、冬の低温と春の晩霜害を受け、



圃場巡回の様子

成園化が遅れましたが、翌 26 年には防寒対策を徹底したことにより凍害が減少し、出荷量が大きく伸びました。

また、直売所での販売も盛んになり、もぎたて完熟のイチジクが大人気です。ジャムやアイスに加工しての販売や、ドライフルーツへの取組も始まりました。



市場出荷量と出荷金額（長生地区）

### 3 今後に向けて

研究会では、毎年、既存の生産組合と合同で視察研修会を開催し、会員相互の交流と情報交換をしています。今年度は、品質向上により販売力を強化するため、3 組織合同で査定会を開催しました。将来的には、出荷協議会の設立を目指すことになりました。

長生地区のイチジクは、他産地と比べて小さいながらも、27 年の JA 別出荷量は、県内 3 位となりました。イチジクは一戸で規模拡大を図ることが困難なので、研究会では、毎年、会員を募集し、会員の増加を図り、更なる産地の拡大を目指しています。



## 選ばれる花き産地であるために、花き流通の基礎知識

生産振興課 園芸振興室  
副主査 福永 佳史

千葉県は平成 26 年の花きの産出額が全国 2 位で花きの主産県です。都心に近い利点を生かして、鮮度の良い品物が出荷されますが、一方で販売を有利に進めるためには基礎知識として市場流通の基本を押さえる必要があります。

### 1 花きの販売を有利に進めるために

市場で花きの販売を有利に進めるためには下記のポイント等を押さえる必要があります。

- ①大口需要に対応する大きいロット
- ②確実に仕入れたい需要に対応する早期の出荷情報
- ③植え付け～出荷までの生育状況の相互確認
- ④地方市場・場外仲卸へ転送できる早い着荷
- ⑤使いやすく規格の揃った、花持ちの良い品質

### 2 千葉県産地の実態

しかし、本県において、上記①については他県と比較して個撰の生産者が多い、②、④については遠方の産地と比較して、出荷情報及び着荷時刻が遅い、⑤については鮮度保持のためのコールドチェーン等の体制が未整備等の実態があります。

### 3 花きの市場流通の流れ

切花の販売日（セリ日）は慣例として月・水・金曜日となっており、おおむね販売前日に売り先が決まります。右図に市場流通について、情報と品物の時間割のイメージを示します。

遠方産地や輸入においては輸送時間が長い分、収穫及び出荷の時刻が早く、出荷情報の送信が早く、早期の販売が行われています。本県産地においては鮮度が強みですが、同時に出荷情報を早めることで、より有利に販売を進めることができます。

着荷時刻については、産地を早く出発していても、遅い時間帯になる事例があります。生産者は出発よりも到着の時刻を知る必要があります。

### 4 まとめ

販売を有利に進めるために、自分の品物の着荷時刻を再確認し、販売機会を得るために出荷情報及び着荷を早めることを目指しましょう。

県では保冷設備を併設した集出荷場の整備、共撰共販率の向上等の支援により、県内花き産地が選ばれる産地であり続けられるよう取り組んでいきます。

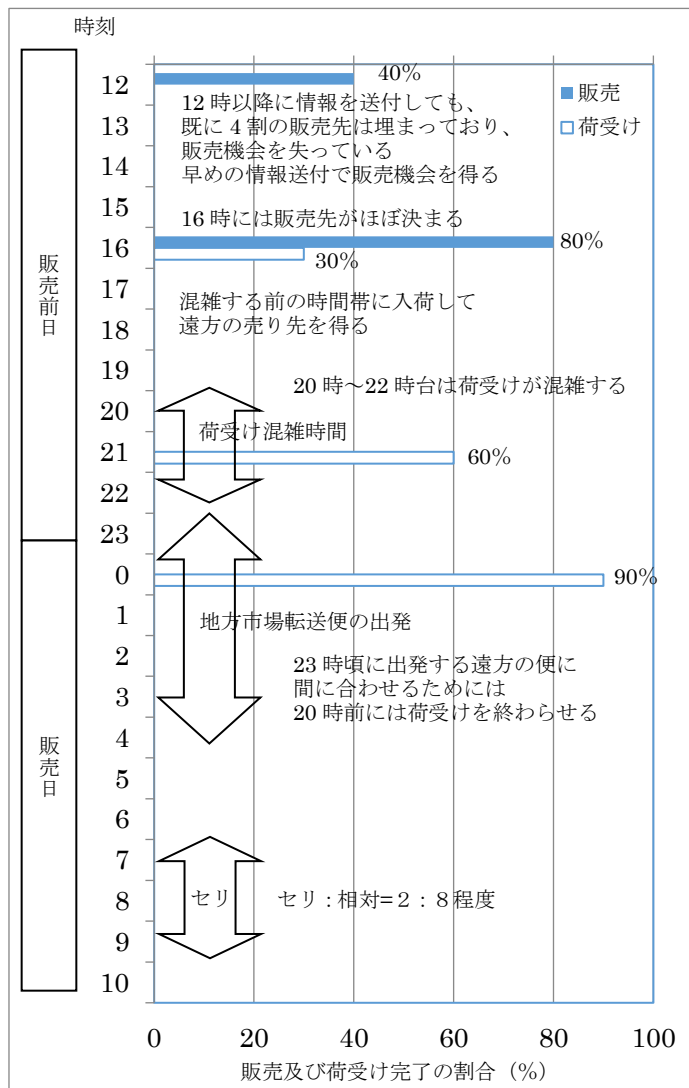


図 市場流通の時間割のイメージ

## 千葉県立農業大学校平成 29 年度 農業者養成研修(前期)の募集について

千葉県内で、新たに就農しようとする方や、既に就農している方が対象です。

### 1 基礎研修

研修期間 平成 29 年 4 月 11 日 (火) ~  
6 月 30 日 (金) 募集人員 5 名

### 2 専門研修

研修期間 平成 29 年 4 月 11 日 (火) ~  
9 月 29 日 (金) 募集人員 5 名

### 3 部門別研修

研修期間 平成 29 年 4 月 11 日 (火) ~  
平成 30 年 3 月 9 日 (金) 募集人員 15 名

### 4 受講料

1 カ月 3,300 円 (教科書代、校外見学費用、実習資材費等は別途実費が必要)

### 5 研修内容

- ① 研修日：月曜日～金曜日
- ② 研修時間・内容：午前 9 時～午後 4 時 10 分  
午前：講義  
午後：農場実習及びプロジェクト実習
- ③ 講義科目：野菜（基礎・各論）、花き、作物、果樹、  
土壌肥料、病害虫、農業経営、獣害対策
- ④ 農場実習：県内で主に栽培されている野菜・花きの  
栽培管理（春夏作）
- ⑤ プロジェクト実習：「校内の農場」で各自が栽培計画  
を作成し、種まきから収穫までの栽培管  
理を行い、知識・技術を習得
- ⑥ 校外学習：市場を視察し生産・流通の現状を把握
- ⑦ 基礎研修を修了後、部門別（野菜・花き・果樹など）  
に分かれて農家実習（週 2 回）と、農場実習及びプロ  
ジェクト実習、専門研修修了後、農家実習（週 2 日）

### 6 応募期間

平成 29 年 1 月 16 日 (月) ~ 2 月 3 日 (金)  
応募者は、所定の受講願書などを提出してください。  
千葉県立農業大学校のホームページから応募用紙を  
ダウンロードしてください。

詳しくは、農業研修科までお問い合わせください。

電話 0475-52-5140

FAX 0475-54-0630

## 第 37 回 千葉県フラワーフェスティバル

年に一度の“ちばの花の祭典“が開催されます。会場には千葉県産の切花、鉢花、観葉植物、洋らんが展示されます。ひと足早い春の訪れをお楽しみください。



第 36 回 特別賞受賞作

会期 平成 29 年 1 月 6 日 (金) ~  
9 日 (月・祝)

会場 三越伊勢丹三越千葉店 8 階催物会場  
(JR、京成、千葉モルレル「千葉駅」から  
徒歩約 5 分)

内容 花の品評会  
(出品点数約 585 点 (予定))  
各種団体による花のディスプレイ  
生産者等による花の教室  
フラワーアレンジデモンストレーション  
花の即売会 など

問合せ 農林水産部生産振興課園芸振興室  
電話：043-223-2871

